

平成 28 年 6 月 21 日放送



親知らずについて

JA とりで総合医療センター
歯科口腔外科 佐藤豊

司会者：はじめに、親知らずは抜くのが大変だと聞きますが、親知らずは抜かないといけないのでしょうか。

佐藤：まずは、親知らずは何歳ころに生えてくると思いますか。また何で親知らずと呼ばれているかご存知でしょうか。

司会者：いいえ、知りません。

佐藤：6歳ごろ生える6歳臼歯は第一大臼歯、12歳頃生えるのは第二大臼歯といえます。18歳ころ、一番最後に生えてくるが第三大臼歯で親知らずとよばれています。昔の親は子供の親知らずの歯が生えてくる前に、親の寿命がきていたのでそう呼ばれていました。昔というのは今から100年くらい前の話で、大正時代の頃です。当時の男女の平均寿命は40歳くらいでした。他には、乳歯が生える赤ちゃんのころは、親は子供の口の中に関心があるのでちゃんと歯が生えているか確認します。高校生までは歯科健診がありますので、まだ歯に関心があります。しかし子供が大学生になって、親知らずが生えるころには、親はもう子供の口の中には関心はありません。ですから親はお子さんの一番最後の歯がいつ生えたのかわからないので親知らずと呼ばれます。

司会者：では親知らずは何が問題となるのでしょうか。

佐藤：親知らずがちゃんと生えていて、良く磨けていれば問題はありません。しかし最近日本人の顎が小さくなってきているのに対し、歯の大きさは変わっていないので全ての歯が顎に入りきりません。そうなると最後に生えてくる親知らずが斜めに生えてきたり、顎の中に埋ったまま出てこない事があります。ごくまれではありますが埋ったまま歯の周り袋を作る嚢胞という病気や顎の腫瘍ができて、顎の骨を溶かすことがあります。

司会者：親知らずをそのまま放置していたらどうなるのでしょうか。

佐 藤：斜めに生えている場合、歯肉にポケットが形成され、歯ブラシが届かないため歯周病になって、腫れて痛くなる事があります。また手前の歯の奥側が親知らずの頭に隠れているので、歯がよく磨けないために、健康な歯が虫歯になってしまう事があります。よく親知らずが痛くて眠れないといって、歯を抜きにくる方がいますが、調べてみると手前の歯が虫歯になっている事があります。親知らずの痛みでは通常痛み止めを飲むと効きますが、ひどい虫歯の場合は、神経を取らないと薬を飲んだだけでは痛みは治まりません。

司会者：いつ頃、親知らずを抜いた方がよいのでしょうか。

佐 藤：生えたての20歳前後が良いのではないのでしょうか。この時期ですと顎の骨がまだ軟らく比較的容易に抜歯が可能です。また20歳前だと、親知らずの歯の根が完成していないため、根が短く顎の中の神経と離れているため、抜歯後の神経障害も少ないです。また、若いほうが体が丈夫で、抜いたあとの傷の治りが早いからです。30歳をすぎると歯周病になりやすく、腫れると麻酔が効きづらくなります。40歳以降では顎の骨が次第に堅くなり、場合によっては歯と骨がくっ付いてしまい、骨を削る量が多くなります。そうすると腫れや出血がひどくなります。50代になると糖尿病や心臓、腎臓の病気が増え、全身的なリスクに注意が必要です。

司会者：抜歯する場合、危険性はどのようなものがありますか。

佐 藤：先ほどの神経障害があります。下の親知らず他の歯よりも顎の中の神経に近く、時に親知らずが顎の中を走っている神経にくっついている場合があります。そのような歯を抜歯すると抜歯の刺激で顎の神経が障害され、しばらく唇がしびれる事があります。多くは、次第に治りますが症状がひどい場合には麻痺が残る事があります。上の親知らずでは、上顎洞という鼻の横にある空気を入れる空洞があるのですが、その壁と親知らずの根が近接している場合、抜歯をするとその壁が抜けて、口から空気や水が鼻に抜けてしまう事があります。この場合は安静に保ち自然に穴が塞がるのを待ちます。穴が大きい場合には穴を塞ぐ手術が必要となる場合があります。

司会者：ほかにもありますか。

佐 藤：他には手前の歯が虫歯の治療などで詰め物がある場合や被せてある場合、抜歯の刺激で取れたり、歯の神経を治療をしている場合は、歯の質が弱いため抜歯の刺激で歯が欠けたり割れたりする危険性があります。また抜歯する際には、局所麻酔薬を歯茎に注射しますがその薬の中に、血管を収縮させる

成分が入っているため抜歯後しばらく血が止まりやすくなります。ですが帰宅し、麻酔が覚めるときは、血管が拡張するので抜歯したところから再び出血することがあります。少量であればガーゼを30分程噛めば止まりますが、骨からの出血ですと止まらない事があります。その場合はもう一度受診して頂き、再度血を止めなければなりません。さらに抜歯後にだされた抗菌薬、抗生物質をきちんと服用していても、1週間以降しばらく経ってからばい菌が入り感染して腫れてくる場合があります。そのときは抜いた所を洗浄する必要があります。

司会者：どこで歯を抜くのが安全でしょうか。

佐藤：歯がしっかり出ている、レントゲンで歯の根の形が単純で顎の神経から離れていれば、一般の歯科医院でも抜歯は可能です。しかし歯の根が曲がっている場合、歯を抜くのが大変な事があります。親知らずの場合は特に、親知らずの抜歯の経験が豊富な先生、口腔外科を専門とする先生に抜いてもらうのが良いと思います。レントゲンで歯の形が複雑であったり、歯と顎の神経が近い場合、CTで詳細を確認できる施設、たとえば総合病院や大学病院がお勧めです。親知らずが骨の中深くある場合、骨を削る量も多くなり、手術時間もかかります。そのため長時間口を開けていなくてはなりません。事前にこのような大変な抜歯と予想される場合は、全身麻酔で行う場合もあります。患者さんは寝ているだけで、抜歯されている感覚もないまま手術が終わります。手術する側も患者さんは動かないので抜歯に集中でき、結果的に早く終わります。手術が早いと腫れも少ないし、手術室は、外来の診察室よりも空気がきれいなのでより清潔に手術ができます。先ほどお話ししました、抜歯後の感染も非常に少ないです。

司会者：最後に親知らずを抜歯するかどうかはいつ頃、どのように判断すればよいでしょうか。

佐藤：若いときは親知らずの症状はなく、虫歯の治療でないとレントゲン写真を撮る機会はないと思います。しかし、就職すると時間が取りづらくなりますので、高校を卒業したら症状がなくても一度は、歯科医院を受診してみてください。そして顎全体のレントゲン写真を取ってみて先生と相談されるのが良いと思います。たまたま虫歯が発見できるかもしれません。親知らずが元々ない幸運な方もおりますが、運悪く親知らずの周りの骨が溶けている病気が見つかる事もあります。その場合は早めに抜歯を検討された方が良いと思います。